公益社団法人
日本語教育学会
－世界の日本語教育－

（中国・上海）
2024 年 3 月

中国の高校生の「んです」の理解と産出に関する調査

范 一楠（横浜国立大学）

１．活動の背景

中国では近年、日本語を第一外国語に選択できる高校が増えてきている。

そのような高校で学ぶ高校生は大学への進学試験の外国語科目を日本語で受験するが、日本語が活かせる仕事に就くことを目指している大学生とは異なり、大学で日本語専攻を志望するとは限らない。「好きなキャラクターやアイドルの言葉がわかるようになりたい」「好きな日本の歌が歌えるようになりたい」「日本へ旅行に行きたい」など、学習者の興味関心が多様である。

また、日本語を専攻とする大学生と比べ、高校生の日本語学習時間は少ない。日本語を専攻とする大学生は日本語の科目が主な履修科目となるが、高校生は国語、数学、地理、歴史、物理、化学などの教科と同程度の授業時間数で日本語を学習することが多い。

上述の通り興味関心が多様で、学習時間が少ない高校生の日本語学習を支援することが、本プロジェクトの目的である。具体的には、高校生の現在の日本語習熟度の判定、特定の文法項目（「んです」）の習得状況の測定、現地の日本語教員と共にフィードバックおよび指導方法を検討するという取り組みを行った。

２．活動内容

２－１　協力者と学習者への依頼

本プロジェクトでは上海市教育委員会に勤める方（以下、協力者 A）に、上海の中等日本語教育の現状の共有、および上海の高校の日本語教員（以下、協力者 B）の推薦をしていただいた。

協力者 B には、日本語課程の詳細情報の共有、調査方法の改善点の検討、および日本語学習者との連絡や調整をしていただいた。

また、協力者 A、B ともに、調査結果と今後の日本語教育の改善点について意見を伺った。

本プロジェクトの日本語学習者は、上海の高校に通っている 2 年生 2 名、3 年生 16 名、計 18 名である。

全員 1 年生から日本語を学習し始め、40 分の日本語授業を週に 7～8 コマを受けてきた。当該高校は寮制で、平日は朝から晩までクラスメートと共に授業や自習の時間を過ごし、週末に自宅に帰るようになっている。そのため、学習環境が統制されており、学習時間や指導方法などによる差が少なく、調査結果の分析に有利である。

また、日本語教材は全国のほとんどの高校で使用されている指定教材の人民教育出版社の『日语』を使用している。そのため、調査結果と教材との関連性についての分析は、ある程度中国の高校において汎用性を持っていると考えられる。

２－２　調査の概要

調査の目的の 1 つは、2 年間の日本語学習を経た学習者の日本語習熟度を測定することである。もう 1 つは、文法項目「んです」の習得状況を測定することである。

「んです」は日常生活でよく用いる文法項目であり、日本語教科書では「状況説明」と記述されることが多い。しかし、用法が多様であるために、上級段階になっても、不自然な使用もしくは必要な場面での不使用によって不自然になることがしばしばみられる（坪根 2009、范 2016）。「んです」の不適切な使用は、聞き手に不快感を与え、コミュニケーションに支障を来す恐れがある。以下の 1）は、早退の理由を伝えるだけのつもりだったが、「んです」の使用で「相手が既に知っている」事情として示すことになり、非難のニュアンスが現れてしまう例である。

1）　（授業中に突然）先生、頭が痛い*<u>んです</u>から、早く帰ってもいいですか。　（実例）

筆者はこれまで、日本在住の学習者や習熟度が異なる学習者のデータを収集してきた。今回はその比較対象のデータを収集することにより、学習環境と日本語習熟度の要因が習得に与える影響を検討した。

調査は以下の 3 つのステップで行った。

a. 日本語習熟度の測定

習熟度判定テストは「ACTFL-OPI」（The American Council on the Teaching of Foreign Languages - Oral Proficiency Interview の略。以下、OPI）を用いた。OPI は口頭運用能力を測定するためのインタビューテストである。「機能・タスク」「場面・内容」「テキストの型」「正確さ」という 4 つの要素から総合的に判断し、日本語習熟度を初級、中級、上級、超級に分けることができる。さらに、初級、中級、上級のなかでもそれぞれ、下、中、上の下位分類がある。

テスト形式は 1 対 1 で、1 名に付き最大 30 分かかるインタビューである。学生のスケジュールについて協力者 B と相談した結果、中国滞在中の実施は難しいため、テスター資格がある者に事前にオンラインで実施してもらった。

b. 「んです」の産出課題

「んです」を使用するかどうかを測定するために、ロールプレイ課題を 6 つ行い、録音および文字化をした。いずれも学習者が「んです」の不自然な使用を産出しやすい場面設定である。後述する理解課題の回答と照合し、学習者の理解と産出の一致性を分析するための課題である。以下が 6 つのロールプレイ課題の概要である。

- 誤解を解く（相手を安心させる）2 課題
- 誤解を解く（弁解）2 課題
- 気持ちや感想を伝える
- エピソードを語る

> 誤解を解く（弁解）の例
> あなたは、友だちから借りた本を返しました。しかし、友だちがそのことを忘れて、まだあなたが持っていると思っています。
> 友だちに説明してください。

調査を実施したのは筆者である。学生のスケジュールについて協力者 B と相談し、上海滞在中に実施可能な場合は対面で、滞在中の実施が困難な場合は事前にオンラインで実施した。

図 1　産出課題（オンライン）の様子

c. 「んです」の理解課題

「んです」を使用するかどうかの二者択一の質問紙調査を行った。指示文は下記の通りである。

> それぞれの会話文で、
> ・あなたが使う表現を 1 つ選んで、〇をつけてください。
> ・どちらにも当てはまらない場合は、何もつけないでください。

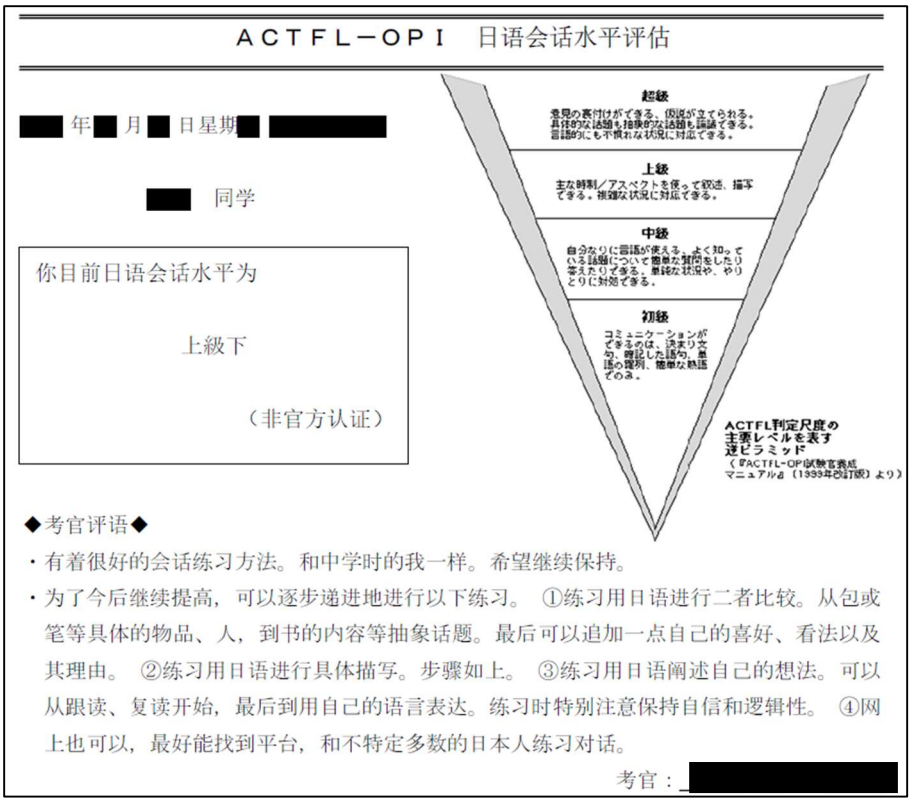
会話文は以下の 24 問からなる。

- 「んです」を使用したほうが自然な会話文：野田（1997）と范（2016a）を参照し、話し言葉コーパスに高頻度で出現する 6 つの用法（事情、換言、帰結、前置き、主題提起、話題継続）を選定した。それぞれの用法につき会話文 2 つ、計 12 問
- 「んです」を使用しないほうが自然な会話文 12 問：范（2016b）を参照して作成

2－3　学習者へのフィードバック

調査結果に基づき、学習者全員一人一人にフィードバックシートを作成し、本人に渡した。フィードバックシートの内容は以下の 3 点からなる。

1. 学習者の OPI でよくできた点と改善点
2. 学習者への今後の日本語学習方法についてのアドバイス
3. 全体的に「んです」の間違いが多い問題の解説



ＡＣＴＦＬ－ＯＰＩ　日语会话水平评估

[redacted] 年 [redacted] 月 [redacted] 日星期 [redacted] [redacted]

[redacted] 同学

你目前日语会话水平为

上級下

（非官方认证）

超級
意見の表明ができる。仮説が立てられる。具体的な話題も抽象的な話題も論述できる。言語的にも不慣れな状況に対応できる。

上級
主な時制／アスペクトを使って叙述、描写できる。複雑な状況に対応できる。

中級
自分なりに言語が使える。よく知っている話題について簡単な質問をしたり答えたりできる。単純な状況や、やりとりに対処できる。

初級
コミュニケーションができるのは、決まり文句、暗記した語句、単語の羅列、簡単な熟語でのみ。

ACTFL判定尺度の主要レベルを表す逆ピラミッド
（『ACTFL-OPI試験官養成マニュアル』（1999年改訂版）より）

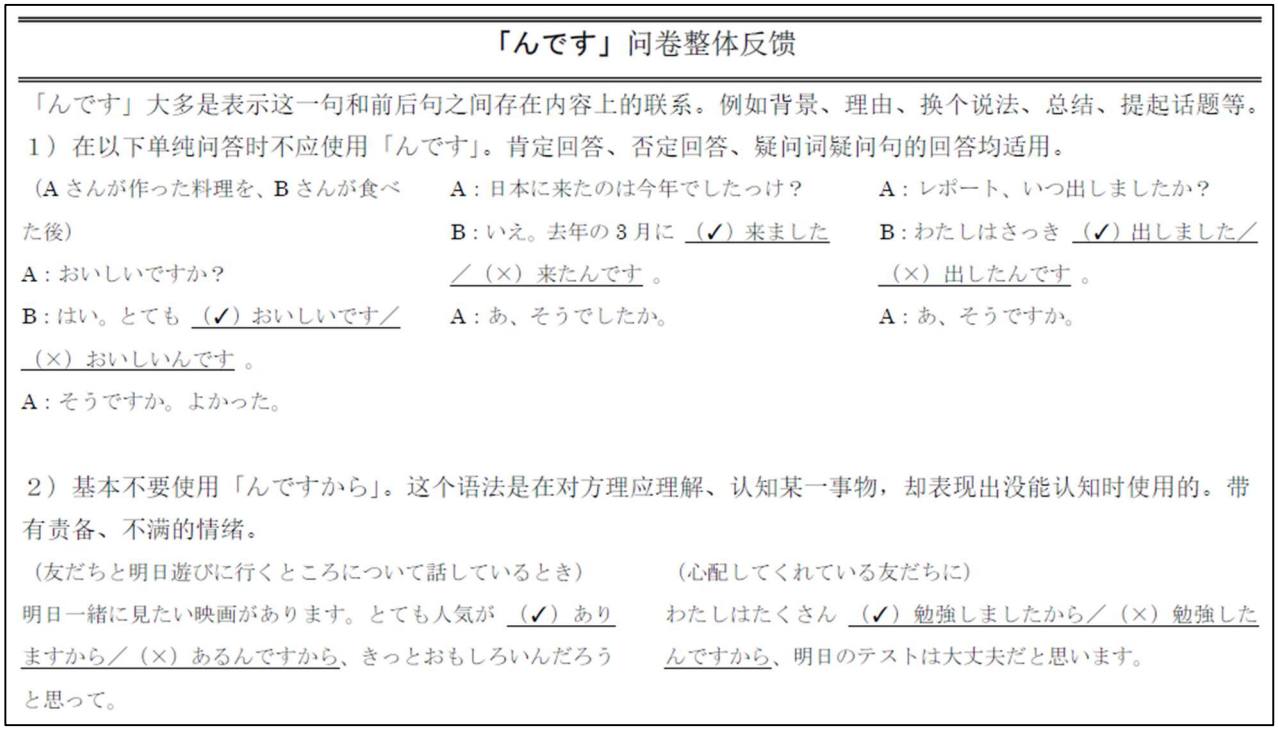
◆考官评语◆

・有着很好的会话练习方法。和中学时的我一样。希望继续保持。

・为了今后继续提高，可以逐步递进地进行以下练习。 ①练习用日语进行二者比较。从包或笔等具体的物品、人，到书的内容等抽象话题。最后可以追加一点自己的喜好、看法以及其理由。 ②练习用日语进行具体描写。步骤如上。 ③练习用日语阐述自己的想法。可以从跟读、复读开始，最后到用自己的语言表达。练习时特别注意保持自信和逻辑性。 ④网上也可以，最好能找到平台，和不特定多数的日本人练习对话。

考官：[redacted]

図２　OPI の発話に関するフィードバックシートの例



「んです」问卷整体反馈

「んです」大多是表示这一句和前后句之间存在内容上的联系。例如背景、理由、换个说法、总结、提起话题等。

1）在以下单纯问答时不应使用「んです」。肯定回答、否定回答、疑问词疑问句的回答均适用。

（A さんが作った料理を、B さんが食べた後）
A：おいしいですか？
B：はい。とても （✓）おいしいです／（×）おいしいんです 。
A：そうですか。よかった。

A：日本に来たのは今年でしたっけ？
B：いえ。去年の 3 月に （✓）来ました／（×）来たんです 。
A：あ、そうでしたか。

A：レポート、いつ出しましたか？
B：わたしはさっき （✓）出しました／（×）出したんです 。
A：あ、そうですか。

2）基本不要使用「んですから」。这个语法是在对方理应理解、认知某一事物，却表现出没能认知时使用的。带有责备、不满的情绪。

（友だちと明日遊びに行くところについて話しているとき）
明日一緒に見たい映画があります。とても人気が （✓）ありますから／（×）あるんですから、きっとおもしろいんだろうと思って。

（心配してくれている友だちに）
わたしはたくさん （✓）勉強しましたから／（×）勉強したんですから、明日のテストは大丈夫だと思います。

図３　「んです」に関するフィードバックシートの例

図２の OPI でよくできた点と改善点は OPI テスターから、学習方法のアドバイスは協力者 A、協力者 B から助言をいただき、作成した。右上の OPI 判定尺度を表すピラミッドは牧野（1999）が提唱し、日本語 OPI 研究会（1999a）にも掲載されているものである。

３．結果と考察

３－１　日本語習熟度判定の結果

OPI による日本語習熟度判定の結果を表 1 に示す。

表 1　OPI 判定の結果

メインレベル	人数	サブレベル	人数
初級	3	中	2
		上	1
中級	14	下	7
		中	4
		上	3
上級	1	下	1

表 1 から、多くの学習者のメインレベルは中級であることがわかる。日本語 OPI 研究会（1999b）によると、中級は「質問をしたり、質問に答えたりするという自発性があり、簡単な対面型の会話が維持できる。目標言語文化の中でサバイバルできるレベル」である。

テストの録音を聞くと、語彙力、正確さ、流暢さなど学習者それぞれで長けている分野が異なるが、自分の経験や関心のある話題について積極的に発言し、意思疎通に成功している様子が窺える。

また、学習者から「自分がこんなに話せると思っていなかった」「日本語を使って、学校以外の方と会話できてうれしい」「2 年間勉強した成果を感じた」との声が寄せられている。

３－２　理解課題の結果

理解課題の調査結果から、「んです」を使ったほうが自然な会話文でも、「んです」を使わないほうが自然な会話文でも、本プロジェクトの学習者の「んです」の選択率が 30～40%であることがわかった。

つまり、「んです」を使用する文脈と使用しない文脈の両方において選択率の差はほとんどない。そのことから、「んです」の使用規則と文脈の関係について理解が不十分である可能性、および日本語母語話者と異なる規則で「んです」の使用を決定している可能性があることが窺える。

范（2017）で収集した日本語母語話者 60 名の理解課題の結果を比較対象として、本プロジェクトの学習者の結果と比較する。

母語話者は 2）と 3）における「んです」の選択率がそれぞれ 85%と 80%だが、本プロジェクトの学習者は 40%と 29%と低い選択率を示している。

2）　A：就職活動、どうですか？
　　B：ああ、有名な会社の面接をいくつか**｛（　）受けてみましたけど／（　）受けてみたんですけど｝**うまくいかなくて、小さい会社でもいいかと思っているところです。

3）　あのう、昨日の昼、友達 3 人が遊びに来る予定だったので、料理をたくさん**｛（　）作りました／（　）作ったんです｝**。でも、約束の時間になってもだれも来なかったので、1 人目に電話したら寝坊って言われて、2 人目に電話しても寝坊、3 人目に電話したらやはり寝坊って言われました。結局だれも来ませんでした。

一方、4）と 5）において母語話者の「んです」の選択率は 0%だったが、学習者はそれぞれ 38%と 43%と高い選択率を示している。

4）　（A さんが作った料理を、B さんが食べた後）
　　A：料理、けっこう残っていますね。おいしくないですか？
　　B：いえ。とても**｛（　）おいしいです／（　）おいしいんです｝**。おなかがいっぱいで。
　　A：そうですか。よかった。

5）　A：レポート、いつ出しましたか？
　　B：わたしはさっき**｛（　）出しました／（　）出したんです｝**。
　　A：あ、そうですか。

3－3　産出課題の結果

産出課題では、ほとんどの学習者が「んです」を使用していない。

范（2017）で、中国在住の上級学習者と日本在住の上級学習者にも同様の産出課題を実施している。その両者とも、4）のように相手の認識を修正しようとする際に「んです」を選んだ学習者は、産出課題でも同様に「んです」の不自然な使用を産出している。6）がその例である。

6)
T：あのこの間本貸しましたよね。
S：はい。
T：読んでみました？
S：はい、読みました。
S：面白かったですよ。
T：あよかったです。その本はですね。
S：はい。
T：実は〇さんも読みたいっていってきたので。
S：あ、そうそうそうですか？
T：もし S さん読み終わったら一回返してもらって〇さんに貸そうかなと思ってますけど。
S：ええ忘れましたの？
S：あのもう返した??んですよ。
（日本在住の上級学習者の発話）

それに対し、本プロジェクトの学習者は理解課題のみに「んです」の不自然な使用が見られ、産出には繋がっていないと言える。

つまり、本プロジェクトの学習者の学習段階においては適切な指導を行うことによって、不自然な使用の産出および化石化を防ぐことが期待できる、ということが本プロジェクトの調査を通してわかった。

4．終わりに

今回の調査を通して、中国で調査する際の留意点を幾つか知ることができた。

まず、寮制の高校に限られるかもしれないが、調査の時間配分について事前に現地の教員と詳細に相談する必要がある。なぜかというと、高校生のスケジュールが過密だからである。高校生は日曜日の夜から金曜日の夕方まで学校に滞在するが、表２の通り調査に参加できる時間は少ない。

表２　中国の寮制の高校生の一日の例

06:00	起床
06:40	朝の自習
07:30	朝食
08:00	授業
11:50	昼食
14:00	授業
17:30	夕食
19:00	夜の自習
21:00	帰寮

全体に対する一斉調査なら、現地の教員と相談した上で、日本語授業の時間を利用できる可能性もあるが、一人一人に対する調査は基本的に夜の自習の時間で実施することになる。

次に、調査方法についての留意点である。1 つ目は、データを共有する際には「One drive」か「Baidu Netdisk」を利用したほうがスムーズであるということである。なお、後者は現地の携帯番号の認証が必要である。

2 つ目はオンラインで会話調査を実施する際に、中国側は「Tencent Meeting」、日本側はその海外版である「VooV Meeting」を利用することが多いという点である。「VooV Meeting」は図４と図５のように日本語表示が可能である。

図４　VooV Meeting のメインメニュー

図５　VooV Meeting のミーティングメニュー

3 つ目はアンケートを実施する場合、「Microsoft Forms」もしくは「问卷星」が利用しやすいことである。後者は登録や認証手続きが必要だが、「設

問形式が多い」「クロス集計や統計分析が自動でできる」といった利点がある。なお、携帯電話持ち込み禁止や、宿舎もインターネット利用不可などの校則がある場合、平日は学校で紙媒体、週末は自宅のオンライン環境で実施してもらうことになる。

最後に、学習者が最も求めるのは、日本語の練習の機会と指導を受ける機会であることがわかった。お土産やお礼の品も喜んでもらえるが、習った日本語を実際に使うこと、専門家や母語話者のフィードバックもしくは体験授業などの実りのある交流が望ましい。

５．今後に向けて

これまでは、大学で日本語学習を始めた学習者と関わることが多かったため、就職や進学を目標に日本語を学習している学習者がほとんどであった。今回の調査を通して、日本に関心を持ち、アニメ、アイドル文化、音楽、旅行など何かを楽しむために日本語学習に励んでいる若い年齢層の学習者の存在に気付くことができた。

そのような学習者の日本語学習を支援するために、プロジェクト終了後も協力者 A、B との交流を継続している。今後は、高校生の教材の改善、副教材の開発、学習者の興味に応じた教室活動デザインなどについて意見交換をしていく予定である。

参考文献

(1)坪根由香里（2009）「OPI における中国語話者の「の」の使用状況」『早稲田日本語教育学』4，43-55.

(2)日本語 OPI 研究会（1999a）「OPI を授業に生かす 第 1 回＜解説・理論編 1＞OPI とは何か」<https://www.opi.jp/resources/opi-for-teaching/01-opi%e3%81%a8%e3%81%af%e4%bd%95%e3%81%8b/>（2024 年 5 月 8 日）

(3)日本語 OPI 研究会（1999b）『OPI を授業に生かす 第 2 回 ＜解説・理論編 2＞評価基準を考える』<https://www.opi.jp/resources/opi-for-teaching/02-%e8%a9%95%e4%be%a1%e5%9f%ba%e6%ba%96%e3%82%92%e8%80%83%e3%81%88%e3%82%8b/>（2024 年 5 月 8 日）

(4)范一楠（2016a）「横断発話コーパスから見る日本語学習者のノダの習得―使用形式と文の繋がりの方向の観点からの分析―」『人間文化 H.S.』39，13-19.

(5)范一楠（2016b）「情報獲得の際の「そうですか。」と「そうなんですか。」『日本語プロフィシェンシー研究』4，41-61.

(6)范一楠（2017）『日本語学習者のノダの使用と習得に関する研究―〈承前のノダ〉と〈後続のノダ〉の違いを中心に―』学位論文（未公開）

(7)牧野成一（1999）日本語 OPI 研究会翻訳プロジェクトチーム（訳）『日本語改訂版 ACTFL-OPI 試験官養成用マニュアル』アルク.